

再評価結果（平成25年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局 国道・防災課
担当課長名：茅野 牧夫

事業名	一般国道49号 <small>たいら</small> 平バイパス	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 東北地方整備局
起終点	自： <small>ふくしま</small> 福島県いわき市常磐上矢田町 至： <small>ふくしま</small> 福島県いわき市好間町北好間	延長	7.7 km		
事業概要	一般国道49号は、福島県いわき市から新潟県新潟市に至る延長約241kmの主要な幹線道路である。 平バイパスは、いわき市常磐上矢田町からいわき市好間町北好間に至る延長7.7kmの4車線道路である。				
S56年度事業化	S55年度都市計画決定 (H一年度変更)	S58年度用地着手	S58年度工事着手		
全体事業費	420億円	事業進捗率	91%	供用済延長	7.7 km
計画交通量	23,700台/日				
費用対効果 分析結果	B/C (事業全体) 1.3	総費用 (残事業)/事業全体 36億円/770億円 〔 事業費：27億円/738億円 維持管理費：8.4億円/32億円 〕	総便益 (残事業)/事業全体 65億円/1032億円 〔 走行時間短縮便益：50億円/895億円 走行経費減少便益：-8.4億円/73億円 交通事故減少便益：24億円/64億円 〕	基準年 平成25年	
	(残事業) 1.8				
感度分析の結果	【残事業】交通量：B/C=1.5~2.4(交通量±10%) 事業費：B/C=1.8~1.9(事業費±10%) 事業期間：B/C=1.7~2.0(事業期間±20%)				
事業の効果等	<p>①円滑なモビリティの確保 ・当該区間の渋滞損失削減時間：19万人・時間/年、当該区間の渋滞損失削減率：10割削減</p> <p>②物流効率化の支援 ・いわき中央ICから小名浜港（現況31分）へのアクセス向上が見込まれる</p> <p>③国土・地域ネットワークの構築 ・当該路線が隣接した日常活動圏中心都市間（いわき市～郡山市（現況90分））を最短時間で連絡する路線を構成する</p> <p>④安全安心で暮らしたるの確保 ・上矢田交差点からいわき市立総合磐城共立病院救命救急センター（現況4分）へのアクセス向上が見込まれる</p> <p>⑤災害への備え ・対象区間が、緊急輸送道路ネットワーク計画における一次確保路線として位置づけあり</p>				
関係する地方公共団体等の意見	<p>○福島県知事の意見 国の対応方針（案）については異議ありません。 なお、東日本大震災からの復興に向け、早期の完成に努めて下さい。 また、更なるコスト縮減など、総事業費の抑制に努めて下さい。</p> <p>○以下の団体から、平バイパスの整備促進について要望あり 一般国道6号・49号いわき地区改築工事促進期成同盟会</p>				
事業評価監視委員会の意見	対応方針（原案）どおり「継続」が妥当である。				
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	この事業の目的が失われるような道路交通状況の変化及び関連プロジェクト等の変更はない。				
事業の進捗状況、残事業の内容等	事業進捗率91%、うち用地進捗率100%				
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	事業進捗に係る問題はない。 H28年度全線4車線開通予定。				
施設の構造や工法の変更等	<p>・橋長の見直し（橋脚1基削減）によるコスト縮減</p> <p>・再生アスファルト合材及び再生砕石の利用</p>				

・ 橋梁の支承構造の検討

対応方針 事業継続

対応方針決定の理由

以上の状況を勘案すれば、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

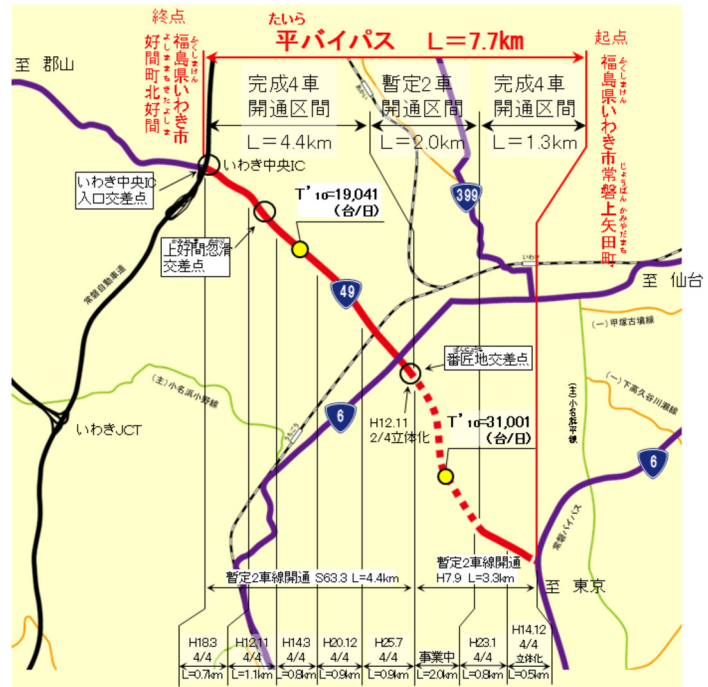
事業概要図



平バイパス



- 評価対象区間(事業中)
- 高規格幹線道路
- 一般国道
- 主要地方道
- 一般県道
- 鉄道
- H22センサス交通量
- 主要渋滞箇所



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。
 ※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。